

急性期から慢性期まで 地域のニーズに応え 充実の医療を提供

関西医科大学から医療法人美杉会に事業継承され、今年4月で10年目を迎えた男山病院。八幡市の中核病院として、急性期医療だけでなく、リハビリーションや緩和ケアにも力を入れてきた同院の現状についてお話をうかがった。



社会医療法人 美杉会 男山病院
荒木 雅人 院長

中核病院としての使命

隙間のない体制で 地域完結型の医療を

昭和50年、関西医科大学3番目の附属病院として開業し、平成21年4月に医療法人美杉会へ事業継承。平成26年には全館リニューアルを遂げ、今年4月に美杉会グループの運営になつて10年目を迎えた。年月が経過するとともに男山病院の医療体制は充実していく、現在では八幡市の中核病院として様々なニーズに応えていいる。「当院では救急医療に力を入れており、八幡市全体の30～40%の患者さんは、地域医療連携室を設置したことや紹介患者さんのスムーズな受け入れが可能となり、開業医への逆紹介も盛んに行えるようになっています。現代の医療で大切なことは、地域で完結した医療を提供できること。その実現のため、登録医の皆さんとはさらに緊密な連携を図っています。八幡市には市民病院がありませんが、それが並ぶ機能を持つ病院として、よう



1.緩和ケアについてよく知らない方に向けて行った、緩和ケアセミナーの様子 2.若手に対して行われる看護実習の様子。男山病院では、次世代の育成を盛んに行っている

3.開業医や介護施設と密接に連携している地域医療連携室。患者さんの様々な相談に対応する

りハビリと緩和ケア

急速期の治療が終われば転院という流れが基幹病院において一般的だが、男山病院には回復期リハビリテーション病棟があり、引き続いて治療を受けることが可能だ。その特長をうかがつた。「当院では整形外科領域の診療が盛んに行われており、手術が増えています。八幡市にはご高齢の方が多く、最低限日常生活ができるようになってから退院したいと希望される方が多かつたため、リハビリ治療を充実させました。在宅復帰率が非常に高いのが病棟の特長で、週によつては100%に到達し、高い満足度を得られています」と、一方で緩和ケアにも力を入れていて、こちらも様々な取組みを行っている。「緩和ケアに入つたら亡くなるまで出られないと思つていてる方もいらっしゃるが、当院の緩和ケア病棟では地域の患者さんが気兼ねなく入れることを重視し、自宅で過ごしたいという意思を尊重しているため、条件が整えば一時退院が可能です。また、他院の緩和ケア病棟では輸血などの医療行為を一切行わない場合がありますが、当院ではできる限り患者さんの希望をうかがい、可能な医療行為を全て実施します。緩和ケア病棟に入るの

が不安という方は、ぜひご相談いただ

リハビリと緩和ケア

回復期や終末期の 充実した医療体制

やく安定した医療の提供ができるようになってきたという自信があります」と、院長の荒木先生は語る。さらに、大阪府がん診療拠点病院にも指定されている同じ美杉会の佐藤病院とは電子カルテで情報共有を行っており、高度先進医療が必要な患者さんもサポートすることが可能。また、美杉会には介護系の施設が豊富にあって、在宅医療の患者さんを500名ほど診療しているなど、その医療体制に隙間はない。病診連携にも力を入れており、登録医の数は順調に増えているといふ。「地域医療連携室を設置したことや紹介患者さんのスムーズな受け入れが可能となり、開業医への逆紹介も盛んに行えるようになります。現代の医療で大切なことは、地域で完結した医療を提供できること。そのため、登録医の皆さんとはさらに緊密な連携を図っています。八幡市にはご高齢の方が多いと考



病院内にあるデイケアセンター。リハビリーションを中心とした介護サービスを提供され、多くの方が利用している

これからの中核病院のために

市民公開講座の実施や 若手医師の誘致

「近年、病院の周辺にニュータウンが増えるなど、若い世代の住民が増えつります。早い段階で知識を得られれば、長く健康に暮らしていける可能性も高くなるため、市民公開講座を定期的に開催し、医療知識の啓発を盛んに行っています。また、医療を活性化させるためには、若手医師の力が必須です。新しい先生にとって魅力ある施設となれるよう研修などを充実させ、ホームページでの情報開示や医療関係者へのアピールなど、システムを構築していくけれども考えています」と、将来を見据えて展望を語る荒木院長。新しい風が吹きつづる八幡市で成長を続ける男山病院の今後に注目だ。

「これからの中核病院のために」と題して、院長の荒木先生は語る。その内容は、隙間のない地域完結型の医療体制を確立すること。具体的には、緩和ケア病棟の充実や、地域連携の強化などである。また、若手医師の育成にも力を入れ、定期的な市民公開講座を開催している。荒木先生は、「地域のニーズに応えるためには、多角的な取り組みが必要」と述べる。今後も、男山病院は地域医療の発展に貢献していくことだろう。